

平成27年度秋田県立ゆり養護学校道川分教室研究計画

(1) 研究主題

コミュニケーションの深まりを目指した授業づくり
～4つの観点を大切にした支援の在り方～

(2) 主題設定の理由

分教室の児童生徒は、いろいろな思いをもち、周囲からの働きかけに心を動かしている。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しく、受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じ得ないことがある。そこで、私たち教師は児童生徒をよく観察し、その微細な動きを見逃さないように心がけ、思いを受け止め応じることを繰り返しながら、気持ちを共有し合うことを積み重ねてきた。そうすることでお互いの心の距離が縮まり、コミュニケーションの第一歩を踏み出し、信頼関係が育っていくのではないかと考えるからである。

これまでの取組から、学校生活の中で育てる力の1つとして「周囲の人たちに自分の思いを伝えていく」こと、コミュニケーションの力を育むことであることを確認し合った。また、人に思いを伝え、その思いが満たされ、周囲の人と関わっていくことの積み重ねが、児童生徒自身の生きる喜びになり、生きる力となっていくと考える。そのために毎日の学校生活の中で児童生徒一人一人の心の動きや感じ方、思いを身近な存在である私たちが気づき、受け止め、言葉や表情などで返していき、安心した関係を築いていた上で、周囲の人と関わる経験を積み重ねることが、コミュニケーションの深まりにつながり、卒業後も病棟で過ごす児童生徒意の豊かな生活に結び付くと考えた。

これまで分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的活動するためには分かりやすい状況づくりを工夫することが必要だと考え、4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切にしてい取り組んできた。昨年度は個別学習を取り上げ、教材・教具に焦点をあて一人一人の実態に応じた工夫・改善を通して、豊かな表現を引き出し身近な人とのやり取りが深まり、自分から関わろうとする力などを育ててきた。

そこで、昨年度までの個に応じた教材・教具の工夫・改善を含む4つの授業づくりの観点を生かした実践で培ってきたコミュニケーション能力を発揮できる場として、今年度は集団学習を取り上げ、その中でさらに育て深めていきたいと考える。そのために、授業づくりにおいてはそれぞれの実態に応じて焦点をあてる観点を明確にして取り組んでいきたいと考える。加えて4つの観点に基づいた評価記録用紙を作成・活用していくことでより客観的な評価を行い、観点を意識した授業づくりや授業改善に生かしていくことが大切ではないかと考える。また、ケース検討会を実施し、実態把握や目標設定、指導内容そして個々のコミュニケーションが深まったときの姿を全職員で確認し合い、子どもたちの思いを受け止めどう引き出すのか、教師の関わり方や個を生かすための集団学習の在り方について見直し、改善していきたいと考えた。これらの実践を通してコミュニケーションの深まりを目指したいと考え、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

4つの観点を大切にした支援を実践する中で、児童生徒一人一人の心の動きや感じ方、思いを教師が気づき、受け止め、言葉や表情などで応じることを大切に、安心した関係を築いていくとともに、周囲の人と関わる経験を積み重ねていくことで、コミュニケーションの深まりにつながり、卒業後も病棟で過ごす児童生徒の豊かな生活に結び付くのではないかと考える。

(4) 研究方法

①授業づくり

- ・全職員及び各学部、各グループで単元及び題材、指導内容の検討をする。
- ・集団学習の授業提示を通して、児童生徒の実態に応じ、「授業づくりにおいて大切にしたい4つの観点」を意識した授業であったかを協議し、授業改善に役立てる。
- ・公開授業研究会、校内授業研究会を実施し、外部専門家や校外からの参観者、校内職員等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討する。
- ・4つの観点を大切にしたい授業評価記録用紙を作成・活用し、指導後の評価をする。また、より授業に生かすことができるように様式の検討・改善をしていく。

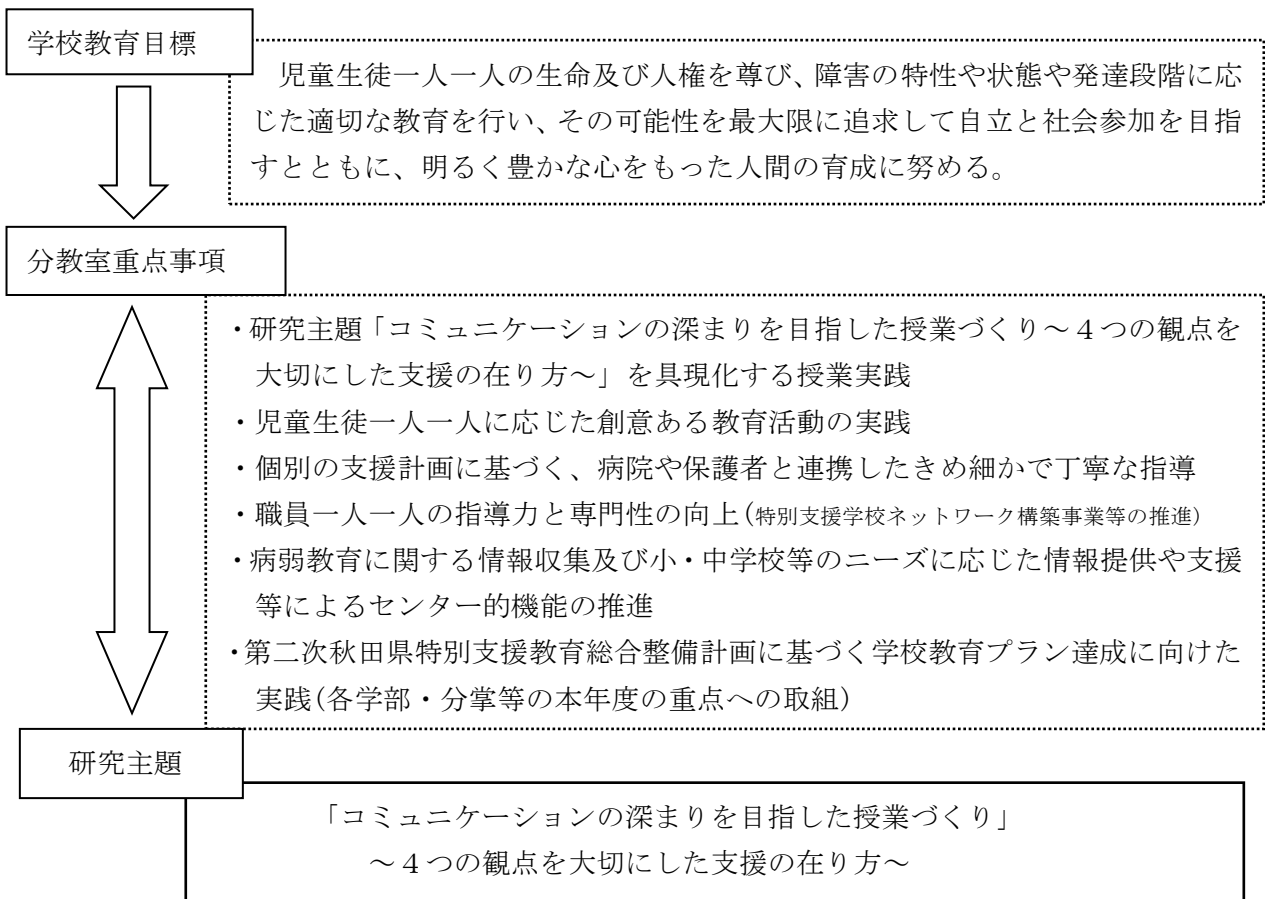
②ケース検討会(児童生徒一人につき年3回実施する)

- ・5月～個別の指導計画を基に児童生徒一人一人の実態、目標及びコミュニケーションの深まりを目指す姿について共通理解を図る。
- ・9月～中間評価を行い、これまでの支援が適切であったかを検証することで、成果・課題から改善点を見出し次時に生かす。
- ・2月～児童生徒の様子や変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。

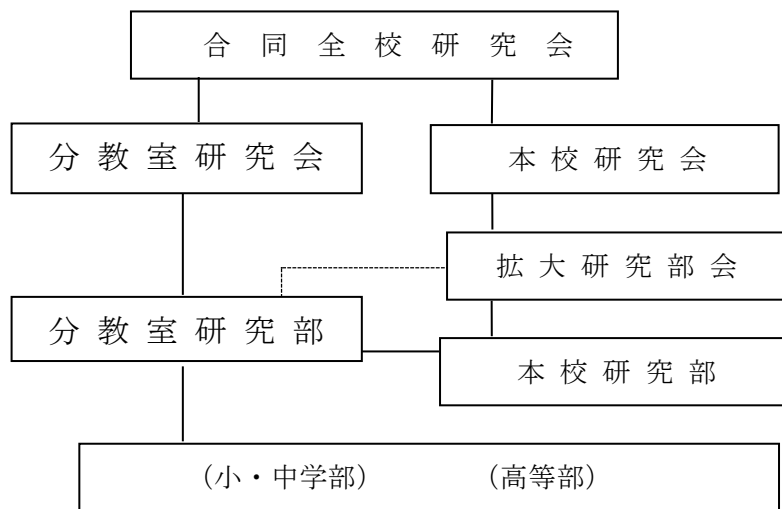
③自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・校内外の人材を活用しながら、自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

(5) 全体構想図



(6) 研究組織



(7) 年間計画

月	日	研究内容	具体的な内容
4	28	研究会①	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究計画についての検討 ・自立活動について ・教材・教具の紹介 ・摂食指導について ・実態、目標、コミュニケーションの深まりについての共通理解
	17	学習会①	
	21	②	
	23	③	
		ケース検討会 I (30～5/7)	
5	7	研究会②	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究計画についての確認 ・本校・分教室相互の研究概要の確認 ・朝の活動・朝の会について
	11	合同研究会①	
	26	学習会④	
6	1	授業づくり検討会① (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動・朝の会における児童生徒の実態、目標、手立ての共通理解 ・朝の活動・朝の会の指導目標や指導内容、題材構成の確認、検討 ・授業研に向けた指導案の検討 ・朝の活動・朝の会(高2・3G)の研究授業、授業研究会 ・重度重複児(者)のコミュニケーションについて ・朝の活動・朝の会(流・一・真・桜G)の研究授業、授業研究会 ※指導案起案
	15	指導案検討会① (グループ)	
	17	事前授業研①	
	18	学習会⑤	
	19	事前授業研②	
	24		
7	8		※指導案送付
	14	授業研究会 I	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動・朝の会(高2・3G)(流・一・真・桜G)の研究授業、授業研究会 ・NPO法人地域ケアさぽーと研究所 下川和洋氏による指導助言講演
8	3	教材・教具研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：県立大職員 ・授業提示
	28	指導主事計画訪問	
9		ケース検討会 II (1～11・グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・実態、目標、コミュニケーションの深まりについての中間評価 ・朝の活動・朝の会における前期の振り返り、後期に向けて ・浪岡授業研究会報告 ・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善 ・授業評価記録用紙の確認(改善も含む) ・東北病連研究協議会原稿読み合わせ
		授業づくり検討会② (1～11・グループ)	
	17	学習会⑥	
	24	研究会③	
	29	学習会⑦	
10	22	学習会⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・全病連、東北病連報告 ・授業研に向けた指導案の検討
	26	指導案検討会② (グループ)	
11	2	事前授業研③	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動・朝の会(祐・怜・聖G)の研究授業、授業研究会 ※指導案起案 ※指導案送付
	6		
	12		

	18	授業研究会Ⅱ 学習会⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動・朝の会（祐・怜・聖G）の研究授業、授業研究会 ・指導主事による指導助言 ・重度重複児（者）のコミュニケーションについて
12	11 17	教材・教具研修会 授業づくり検討会③ （グループ） 研究会④	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：県立大職員 ・朝の活動・朝の活動におけるこれまでの振り返り ・研究の評価及び課題の整理
1			
2	2	研究会⑤ ケース検討会Ⅲ （16～29）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめと研究紀要に向けて ・児童生徒の変容、来年度のねらいについて
3	8	研究会⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめと次年度計画に向けて